

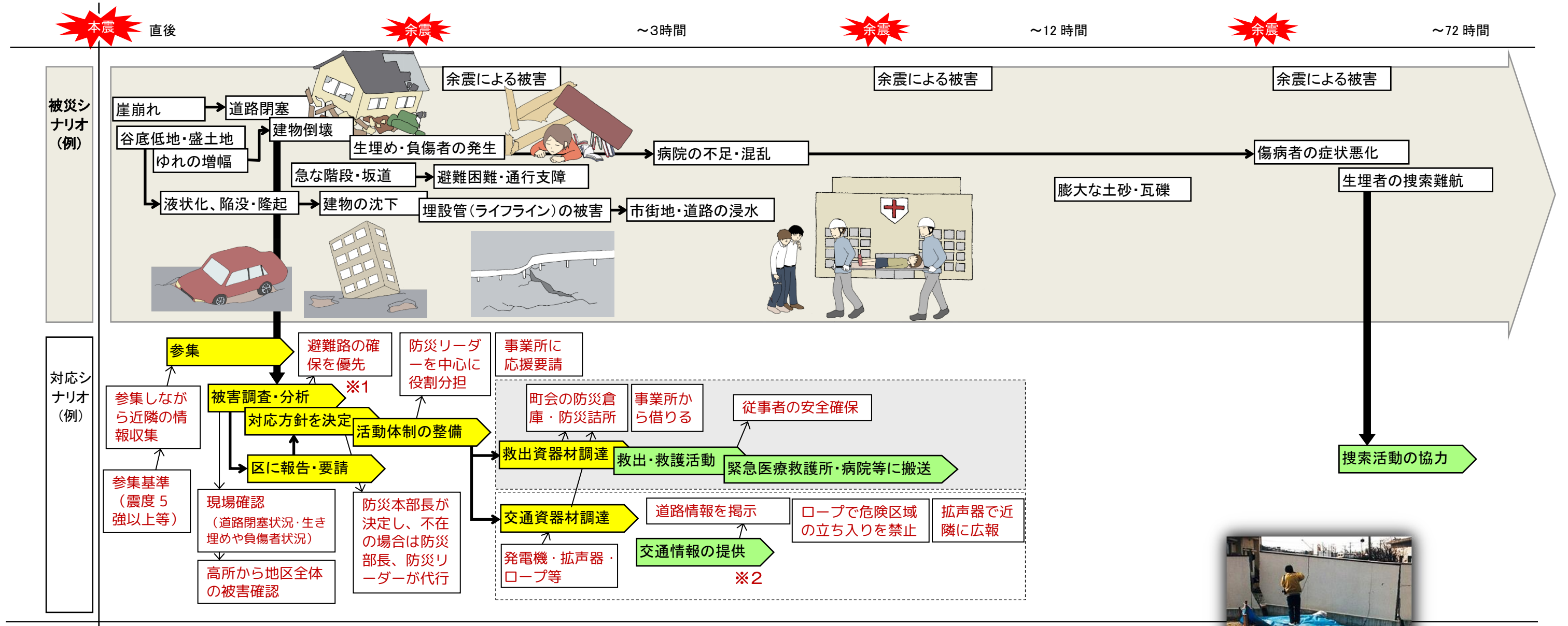
(3) 志村坂上地区「被災・対応シナリオ(共助)」

(注1) 「対応シナリオ(例)」の()は活動内容を示し、()は活動準備を示す
 (注2) 写真は全て阪神・淡路大震災の様子

1) 地盤被害

ポイント!

地盤被害の場合、崖崩れや河川沿いの液状化等に伴い、「救出・救護活動」や、危険区域または道路情報など「交通情報の提供」等の活動が考えられます。



さらに詳しく!

【※1 被害調査・分析】

○地盤の被害は、「建物倒壊」や「道路閉塞」など、火災時の避難場所・避難路等に大きな影響を及ぼす可能性があります。

○とくに、避難路が危険な場合、リーダーは他の経路選択等を即断し、住民を先導する必要があります

【※2 交通情報の提供】

○地盤被害により道路が閉塞した場合、避難路の確保や二次被害防止のために、交通事情に関わる情報提供(迂回路の掲示

等)や、危険区域への立ち入り禁止の指定を行うことが考えられます。

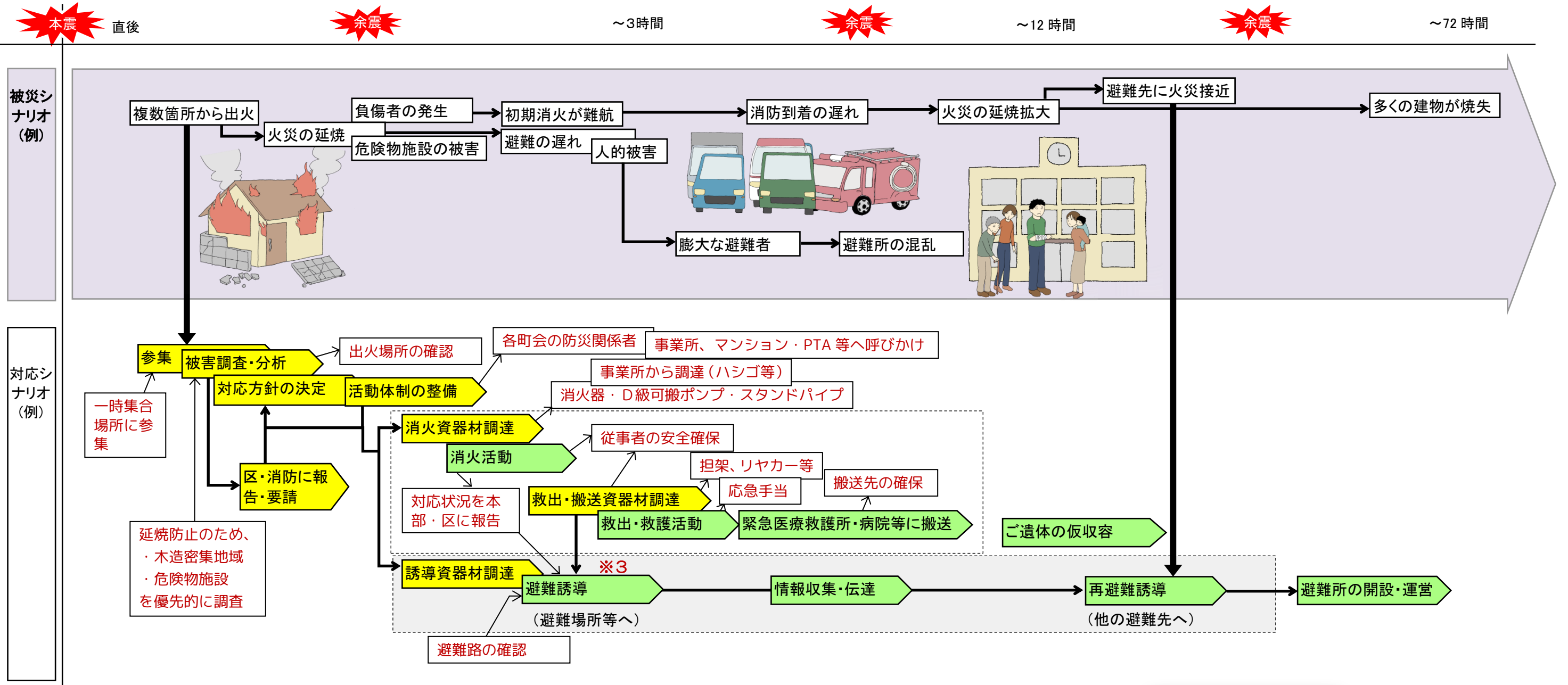
(注1) 「対応シナリオ(例)」の()は活動内容を示し、()は活動準備を示す

(注2) 写真は全て阪神・淡路大震災の様子

2) 建物火災

ポイント!

火災発生の場合は、「消火活動」、「救出・救護活動」、「避難誘導」等が必要となります。そのためには、迅速な「対応方針の決定」、「活動体制の整備」、「必要資器材の調達」等が重要です。



さらに詳しく!

【※3 避難誘導】

○密集市街地では、同時多発火災の場合も想定し、「初期消火」、「安全な避難路の選定」、「要支援者の避難支援」等を事前に検討しておくことが重要です。

○たとえば、避難先に火が近づき、「再避難」の必要に迫られた場合、先遣隊が現地を確認し、安全な避難路を確保した上で先導します。

○また、あらかじめ考えていた避難路が使えない場合も想定されます。道路の混雑・渋滞や被害状況に応じた安全な避難方法を、複数パターン考えておくことも大切です。

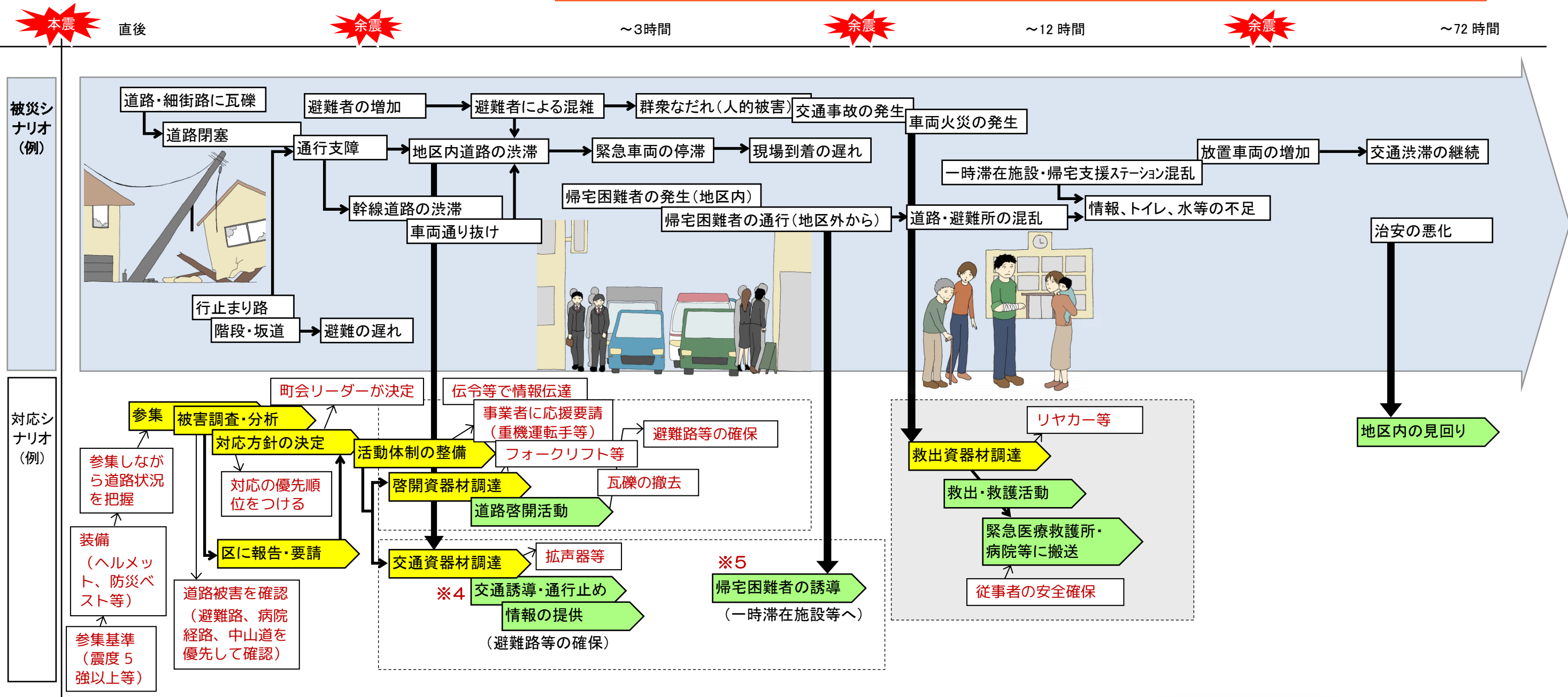


(注1) 「対応シナリオ (例)」の()は活動内容を示し、()は活動準備を示す
 (注2) 写真は阪神・淡路大震災、東日本大震災の様子

3) 道路閉塞

ポイント!

道路閉塞の場合は、「道路啓開」や「交通誘導・情報提供」等が必要です。その他、人的被害が発生した場合の「搬送活動」、「避難誘導」等も考えられます。



さらに詳しく!

【※4 交通誘導・情報提供】

○本地区では、幹線道路(中山道、環状8号線)が通るため、多くの通り抜け車両が地区内生活道路にまで流入し、大渋滞が及び可能性があります。

○例えば、通り抜けをうかがうドライバーに対して、交通事情に関わる情報提供であれば行うことも考えられます。「この先大渋滞につき通り抜け不可」といったプラカードの掲示等

【※5 帰宅困難者の誘導】

○地域の避難所に帰宅困難者が押し寄せた場合には、近隣の一時滞在施設である「板橋東清掃事務所」等に関する情報提供や誘導を行うことも考えられます。



ポイント！

災害対応を効果的に行えるように、区等が提供する情報等を活用しながら、災害対応の「特に優先度の高い活動」と、そのための「事前対策」を、「人・モノ・情報・空間」の視点で考え、進めましょう。

(1) 「事前対策」の考え方**1) 「事前対策(公助)」について**

板橋区等が提供している各種情報を活用して、事前対策を進めましょう。

— p23 から詳しく！ —

2) 「事前対策(自助)」の考え方

「事前対策リスト(自助)」では、自助を普及・啓発するために、災害に備えて日頃から家庭で準備しておきたい事柄をチェックリストにしました。現時点での備えをチェック(評価)した上で、今後の実施計画を考えてみましょう。

— p25 に詳しく！ —

3) 「事前対策(共助)」の考え方

実際の災害では、限られた資源を、特に優先度の高い活動に集中的に動員する判断が求められます。そこで、共助の事前対策を考えるにあたっては、まず、被害状況の把握とそれにもとづくその後の対応について、その優先度合いを検討します。

次に、優先度が高い活動を円滑に進められるように、以下の「人・モノ・情報・空間」の視点で必要なことをリスト化し備えます(下記参照)。

「事前対策リスト(共助)」では、「対応シナリオ」に応じた活動テーマ別の事前対策をリストにしました。地域で協力しながら大事なこと、できることから取り組みましょう。

— p26 から詳しく！ —

用語説明

「**人**」は、人材や組織を育て、地区内外の関係団体と連携すること、住民同士が交流し顔見知りの関係になること等が大事です。

「**モノ**」は、救出・救護・搬送、消火等の対応に用いる資器材の配備、調達方法等を検討しておくことが大事です。

「**情報**」は、必要になる情報を整理し、情報収集・伝達の体制をつくり、情報連絡手段を準備し、訓練で動けることが大事です。

「**空間**」は、災害対応に必要な空間、安全な避難に必要な空間、災害に強い空間の整備、利用方法の検討等が大事です。

(2) 「事前対策(公助)」を活用しましょう

1) 地震時の避難先や自宅周辺の状況を確認しましょう

ポイント!

防災マップや「どこナビいたばし」「板橋区防災マップアプリ」などを使い、最寄りの避難先とそこまでの避難路を確認しましょう。一時集合場所は、地域の町会・自治会で決められています。(マップの「一時集合場所リスト」参照)

避難の流れ

避難先を記入しましょう

情報の収集・伝達



一時集合場所

火災が拡大



避難場所

自宅で住めない



避難所 (区立小中学校等)

「どこナビいたばし」

ホームページ上に用意した地図を利用して、避難所や避難場所等、区内の様々な施設の位置を探ることができます。

「板橋区防災マップアプリ」

防災マップと防災関係情報を閲覧できるスマートフォンのアプリ(無料)です。

- ◇インターネット非接続状態でも現在地を表示。
- ◇避難所や避難場所等、区内の様々な施設を地図上に目印表示。
- ◇防災関係施設と現在地を結び、進行方向を案内。

※アプリダウンロード時の通信費、外部リンクページの閲覧による通信費、電話番号発信による通話料等は、自己負担となります。



Android
端末用



iPhone
端末用

2) 防災・緊急情報メール配信サービスに登録しましょう

- 登録したアドレス宛に板橋区の災害や気象などの情報を配信します。

◇主な発信情報—【地震の情報】【板橋区内の気象情報・注意報】ほか

◇登録方法 右のQRコードを読み取るか、空メールを送信してください。

メールアドレス itabashi@bousai-mail.jp

(受信料金(通信費)や通信機器については自己負担となります)



3) 安否確認サービスの利用方法を確認しましょう

- 災害用伝言ダイヤル「171」の使い方を確認し体験しましょう（毎月1日・15日等は体験利用日）

伝言の録音

- ① 「171」 にかける
- ② 「1」 + 「市外局番からの電話番号」
- ③ ガイダンスが流れた後、ピッという音の後に、伝言を録音します



伝言の再生

- ① 「171」 にかける
- ② 「2」 + 「市外局番からの電話番号」
- ③ ガイダンスが流れた後に、録音された伝言が再生されます



4) 防災行政無線・電話応答サービスについて

- 災害発生時に地域住民の生命・安全を守るために必要な緊急情報を伝える手段として、防災行政無線を整備し、小中学校や公園など区内に165か所の屋外放送塔を設置しています。防災行政無線からの放送を「聞き漏らした」「聞き取れなかった」という場合には、放送された内容を以下の番号より確認できます。

電話応答サービスの電話番号
〈 03-5943-7200 〉

- ・ご利用には、通話料金がかかります。
- ・録音されている放送内容は、最新の20件です。放送から24時間経過すると、放送内容は削除されます。

5) 風水害関連

「板橋区気象観測システム」

- 区では、雨量や水位等を、下記の区ホームページにて、常時提供しています。気象庁が発表する気象警報や注意報と合わせて活用しましょう。



板橋区気象観測システム <<http://www.tenki.ne.jp/itabashi/index1.html>>



※大雨や水位の急速な上昇時には【防災・緊急情報メール配信サービス】（前頁参照）によりメールで情報提供を行います。

区が提供する避難情報

テレビ・ラジオ、防災行政無線、防災・緊急情報メール、消防署・消防団の広報車・ポンプ車、警察のパトカー、住民防災組織・近隣住民の声掛け等により伝達

- 避難準備情報⇒避難に時間がかかる方（要支援者など）は、避難を始めてください。通常の避難ができる方は、気象情報に注意し、家族との連絡や非常用持出品の用意など、避難準備を始めて下さい。
- 避難勧告 ⇒通常の避難ができる方は、決められている避難所などへの避難を始めて下さい。
- 避難指示 ⇒ただちに避難してください。避難中の方は、すぐに避難を完了して下さい。外が危険な場合は、自宅や近くの建物の2階などに避難し、屋内で安全を確保して下さい。

(3) 「事前対策リスト(自助)」

家の中の安全	<input type="checkbox"/> 家具が転倒しないように固定する	
	<input type="checkbox"/> 建築物の耐震診断・耐震補強をする	
	<input type="checkbox"/> 寝室には家具を置かないか、寝床に向かって転倒しないようにする	
	<input type="checkbox"/> 玄関などの出入り口までは物を置かずに避難できるようにする	
	<input type="checkbox"/> ベランダの避難用の隔壁、避難ハッチ周りに物を置かない	
	<input type="checkbox"/> 家具の扉が揺れで開かないようにする（耐震ラッチなど）	
	<input type="checkbox"/> 家具のガラス扉などは飛散防止フィルムを貼る	
	<input type="checkbox"/> 寝室に靴やスリッパ、軍手（ガラスが飛散した場合に必要）	
	<input type="checkbox"/> ほうき、ちり取り（掃除機は停電時使えない）	
	<input type="checkbox"/> 感震ブレーカーの設置（地震による電気火災への対策）	
<input type="checkbox"/> 消火器の設置場所と使い方の熟知		
避難・救護	<input type="checkbox"/> 安否確認用ステッカー	
	<input type="checkbox"/> ホイッスル（閉じ込め時に音を発するため）	
	<input type="checkbox"/> 災害伝言ダイヤルなど家族の連絡方法の確認	
	<input type="checkbox"/> 応急医薬品（絆創膏、消毒薬、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、常備薬など）	
水や食料	<input type="checkbox"/> 飲料水；1人1日3リットルを最低3日分（7日分を推奨する）	
	<input type="checkbox"/> 水用携行タンク（飲料水の配給時に必要）	
	<input type="checkbox"/> 食料；レトルト、缶詰、インスタント食品、栄養補助食品、チョコレート等の菓子を最低3日分（7日分を推奨する）	
	<input type="checkbox"/> 生活用水（飲料しない水）；風呂の汲置き、やかんやポットに水を入れておく	
	<input type="checkbox"/> 粉ミルク、離乳食（乳幼児がいる場合）、アレルギー対応食品	
	<input type="checkbox"/> ガスカセットコンロ、予備のガスボンベ	
	<input type="checkbox"/> ラップ（食器にかぶせて使えば洗わなくてよい）	
	<input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、割り箸	
避難生活用品	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ（便袋）	
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー（余分に備蓄）	
	<input type="checkbox"/> ティッシュ（余分に備蓄）	
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯, ランタン, マッチ, ライター	
	<input type="checkbox"/> ラジオ	
	<input type="checkbox"/> 電池（余分に備蓄）	
	<input type="checkbox"/> 毛布	
	<input type="checkbox"/> 虫よけ用品	
	<input type="checkbox"/> ビニールシート（敷物、雨よけ）	
	<input type="checkbox"/> 貴重品リスト	
	<input type="checkbox"/> 情報収集先リスト（自治体 HP 等）	
	<input type="checkbox"/> 防災マップ	
	<input type="checkbox"/> ガムテープ	
	<input type="checkbox"/> ドライシャンプー	
	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	
	<input type="checkbox"/> マスク	
<input type="checkbox"/> 衣類		
<input type="checkbox"/> 生理用品		
<input type="checkbox"/> 紙おむつ		
<input type="checkbox"/> 雨具		
<input type="checkbox"/> 新聞紙（防寒、燃料）		
<input type="checkbox"/> リュック（物資の持ち運び用）		
<input type="checkbox"/> 動物の管理としつけ（身元表示、健康管理、ペット用品、一時預かり先の確保等）		
便利なもの	<input type="checkbox"/> ソーラーまたは手動充電器（携帯、電池用）	
	<input type="checkbox"/> 家庭用発電機	
	<input type="checkbox"/> 蓄電池	
<input type="checkbox"/> 防災カード（住所、氏名、連絡先、既往症、通院先、薬アレルギー、処方箋等）		
<input type="checkbox"/> ヘルメット・工具類		
<input type="checkbox"/> 公衆電話用 10 円硬貨		

(4) 「事前対策リスト(共助)」

【凡例 人：人 ⊕：モノ 情：情報 ⊕：空間】

1) 地盤被害への対策

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策 (例)
①参集	<ul style="list-style-type: none"> 震度 5 強で参集場所に参集 参集しながら情報収集 役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> 人 役割分担を決めておく 人 平時の活動を活発にする 人 防災イベントの工夫 (地域の歴史を知ろうなど) 人 町会、マンション、福祉園、事業者の連携 ⊕ 装備品の準備 (ヘルメット、軍手、靴等) 情 参集基準震度を周知 情 参集場所を複数決めておく 情 参集場所の周知
②危険場所の把握	<ul style="list-style-type: none"> 被害状況 (崖崩れ、道路閉塞、人の被害状況) の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 人 図上・実働訓練 (本部情報訓練、避難訓練等) ⊕ リヤカー、自転車、建設資器材の備え 情 崖の近所に住む方から崖の状況について情報収集 (崖崩れの前触れを注視) 情 土地の歴史を周知 (昔から住んでいる人に話を聞く、古地図を見る等) 情 情報連絡体制づくり 情 道路の危険箇所の把握
③情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 事業所から活動できる人を確保 危険箇所にロープを張る ハンドマイク、掲示板等で広報 	<ul style="list-style-type: none"> 人 事業所との協定 人 図上・実働訓練 (本部情報訓練、避難訓練等) ⊕ 拡声器、トラロープ、発電機の確保 情 伝達すべき情報項目の整理 (被害場所、安否等) ⊕ 「危険・資源マップ」の作成・活用
④二次被害防止	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中を巡回する 	<ul style="list-style-type: none"> 人 防災リーダーの役割分担、巡回の区域分け ⊕ 誘導灯の確保 情 危険マップの周知



2) 建物火災への対策

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策 (例)
①参集	<ul style="list-style-type: none"> 大声で近隣に知らせる 近隣で消火器を持って集まり初期消火 参集場所に参集 本部の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 人 マンション住民との連携 人 防災意識の高揚 ⊕ 一家に一本の消火器の備え (回覧板で連絡) ⊕ 感震ブレーカーの普及 情 集合場所を決めて、集合するように周知

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策（例）
②情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 本部で情報収集 安否確認 消防署への通報 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 防災マップ（消火栓、防火水槽等の位置）の備え ㊦ 安否確認リストの作成（家族構成の確認等） ㊦ 緊急時連絡システムづくり ㊦ 消火資器材の位置の把握
③消火活動	<ul style="list-style-type: none"> 消火活動（水幕等で延焼防止） 交通整理 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 消防団、防災リーダー等との連携 ㊦ 事業所への協力要請 ㊦ 防災訓練（若者、中高生に資器材の使用方法を学んでもらう） ㊦ 消火資器材（消火器、スタンドパイプ、C級ポンプ、D級ポンプ）の備え ㊦ 防災倉庫の鍵の確保
④避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 安全な避難路の確認 避難者への指示 負傷者、要支援者の救出・救護・搬送活動 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 要支援者の支援体制づくり（役割分担） ㊦ 避難誘導訓練 ㊦ 担架、リヤカーの備え ㊦ 避難路の安全性を確保



3) 道路閉塞への対策

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策（例）
①参集	<ul style="list-style-type: none"> 参集場所に参集 参集しながら状況把握（道路状況等） 区、ラジオなどから情報入手 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 参集場所の決定、周知 ㊦ 参集基準震度を周知 ㊦ 被害状況調査方法（収集すべき情報項目と入手先）の整理 ㊦ 集合場所への道路状況の安全性を確保
②活動体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 本部の立ち上げ（トップリーダーを決定等） 役割分担 協力企業や民生委員との連携 集まった人への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 体制づくり（企業、民生委員との連携） ㊦ 防災訓練で役割の確認 ㊦ 防災ベスト（リーダーが分かるように）、拡声器等の備え ㊦ 支援が可能な人の名簿づくり ㊦ 小学校責任者との連絡・確認
③状況判断	<ul style="list-style-type: none"> 迂回経路、避難場所の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 危険な場所の確認（火災、がけ崩れなど） ㊦ 複数の避難先、避難路を想定 ㊦ 「危険・資源マップ」の作成・活用
④避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 避難誘導 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ マンションへの協力要請 ㊦ 要支援者の見極め（支援基準と支援内容の作成） ㊦ リヤカー、ヘルメット、担架等の備え ㊦ 避難場所の周知 ㊦ 掲示板に一時集合場所を表記 ㊦ 避難訓練を積極的に周知

ステップ 4

自分に何ができるか考えましょう

(1) 地域防災活動に参加しましょう

ポイント!

板橋区では、多くの町会・自治会が住民防災組織（自主防災組織）を結成し、地域防災活動に取り組んでいます。地域の一員として、住民防災組織活動に積極的に参加しましょう。また、防災組織を結成していない地域やマンションなどでは、自主防災組織を結成しましょう。

防災活動への参加方法（例）

- 防災活動に関心を持ち、災害時には住民防災組織の活動に積極的に参加する。
- 災害時に役に立つ専門能力（医療福祉関係者や建設関係者など）を持つ場合は、どのような支援が可能か、事前に住民防災組織に伝えておく。
- 災害時に支援を受けたい要支援者は、事前に住民防災組織に支援してもらいたい内容を伝え、支援者とともに支援計画を作成する。
- 防災講習や訓練に参加し、防災知識の習得や資器材の使用法の習熟に努める。
- 住民防災組織のメンバーになり、地域防災活動の担い手になる。

(2) 住民防災組織の役割分担

ポイント!

平常時と災害時の活動に応じて、役割分担（組織体制）を考えましょう。

- 「被災・対応シナリオ」（ステップ2）の活動に合わせた 災害時の役割分担
- 「事前対策リスト」（ステップ3）の活動に合わせた 平常時の役割分担

住民防災組織の体制と活動例		組織活動	
		災害時	平常時
組織体制			
本部長	情報収集・伝達班	●情報の収集・伝達	●防災知識の普及・啓発
	避難誘導班	●避難誘導	●地域内の安全点検
	初期消火班	●初期消火	●消火用ポンプや担架など 防災資器材の点検・整備・ 使用法の習熟
	救出・救助班	●被災者の救出・救助	●要支援者名簿・支援計画の 作成
	救護班	●応急手当	●防災訓練・講習会の実施
	要支援者救護班	●要支援者の支援	
	避難所運営班	●避難所の管理・運営	
	給食・給水班	●炊き出し	

防災訓練をしましょう

ポイント！

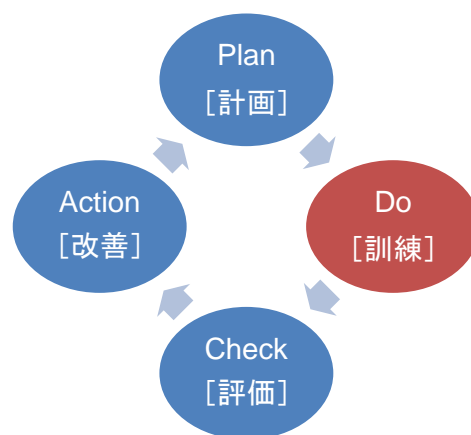
いざというときに、地域で協力して適切な行動ができるように防災訓練に参加しましょう。

さらに詳しく！

(1) 防災訓練の必要性

防災マニュアルは、作成して終わりではなく、実際に実行できるのかどうかを確認する必要があります。

そのためには、実践的な防災訓練を行ってマニュアルを検証し、必要に応じてマニュアルを見直すこと、つまり「計画→訓練→評価→マニュアルへの反映」という、「PDCAサイクル（右図：Plan [計画] →Do [実行] →Check [評価] →Action [改善]）」を繰り返すことが重要です。



転倒した家具からの救出訓練

(2) 防災訓練のメニュー

訓練には、地図やシナリオを使い災害対応のイメージを高める図上訓練、資器材を実際に使う実技型訓練などがあります。積極的に参加・企画しましょう。

防災訓練のメニュー（例）

○情報収集・伝達訓練

災害時に、地域の被害状況（死傷者、建物・道路の被害程度等）を迅速に調査し、地域の情報拠点に情報を集め、区に報告したり、対応方針を地域住民に伝達するための訓練。

○救出・応急救護・搬送訓練

災害時に、倒壊家屋から生き埋め者の救出、傷病者の応急手当（AED、止血等）、災害拠点連携病院への搬送などを行うための訓練。

その他、消火訓練、避難誘導訓練、避難所開設・運営訓練、給食給水訓練、要支援者のケア訓練、水害対応訓練等、様々な訓練があります。

区のホームページに、防災訓練の具体的な方法を紹介していますので、防災訓練の企画に活用してください。

板橋区防災訓練「訓練メニュー」

<http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/057/057278.html>

おわりに

(1) 共助の防災対策を進める上での課題

このマニュアルを作成するにあたっては、共助の防災対策に関わる様々な話し合いの中で、意見が分かれたり、よい解決策が見つからない場合もありました。

そうした課題や悩みをテーマ毎に整理したものが下表です。今後とも、地域での話し合いのテーマとして、地域に合ったよい解決策を考えましょう。

テーマ	共助の防災対策の課題
参集	・ 役員が参集できない場合の役割分担をどうするか。(代理人、柔軟性等)
被害調査・分析	・ 被害状況・安否情報をどう収集・伝達するか。(連絡体制、手段等)
対応方針の決定	・ 対応の優先順位をどう判断するか。(被害の重大性、緊急性、可能性等) ・ 対応方針をどう決めるか。(本部長権限、合議制等) ・ 大事な情報を住民・関係者等にどう伝達するか。(伝令、掲示等)
活動体制・資器材の確保	・ 本部体制をどう構築するか。(本部の役割分担、担い手確保等) ・ 関係機関とどう連携するか。(区役所・警察・消防・事業所等との協定等) ・ 必要な資器材をどう確保するか。(備蓄、調達先リスト、各種協定等)
応急活動の実施	・ 「想定外」の事態にどう対処するか。(イメージトレーニング、図上訓練等) ・ 従事者の安全をどう確保するか。(活動体制、装備、情報提供等)

(2) 本マニュアルの活用方法

本マニュアルの活用方法として下記のことが考えられますので、地域の皆さままで進めていきましょう。

- マニュアルの普及・啓発
- まち歩きと防災マップづくり
- 防災訓練の企画、実施
- 各町会・自治会独自のマニュアルづくり
- 組織体制の見直し
- 関係機関や事業所との連携、等

ポイント!

今後は、より一層きめ細やかな、実効性のある共助の防災対策となるように、この「志村坂上地区防災マニュアル」をもとに、各町会・自治会で「防災マニュアル」を作成してみたいはいかがでしょうか。

刊行物番号

27-139